

社会実験による田原市レンタサイクル事業の効果分析と自転車利用環境改善策の検討

豊橋技術科学大学 非会員 ○松葉 直樹
 豊橋技術科学大学 正会員 廣島 康裕
 豊橋技術科学大学 正会員 中西 仁美
 豊橋技術科学大学 非会員 岡本 正臣

1. はじめに

自転車交通は市民の手軽な交通手段として、また環境への負荷が少なく、自動車依存による様々な問題の打開策として見直されているなどの理由から、利用促進に対する動きが高まっている。今後、都市における日常的な交通手段として広く自転車の利用促進を図るためには、自転車が快適かつ安全に走行できる空間の整備や制度の充実を行っていくことが重要であると考えられる。そのためには、自転車利用者の意識や実態を正確に把握し、各種の自転車利用促進策がどの程度効果を有するか分析しておく必要がある。

そこで、本研究では田原市におけるレンタサイクル事業の社会実験を対象として、レンタサイクルが自転車利用の促進に与える効果を分析するとともに、市民アンケート等から自転車利用の実態や意識を把握し、地方都市における自転車利用環境改善策の方向を明らかにすることを目的とした。

2. 田原市における自転車利用を巡る現状

田原市は東西に伸びた渥美半島の中央にあり、南北は海に面している。概ね温暖であり、比較的平坦であることから自転車利用が促進されやすい環境と考えられている。自転車の歩道通行による歩行者への危険性や、自動車との混合通行による自転車利用者への危険性は残っており、それら自転車利用者に対して必要な自転車道などの施設整備はまだ十分とはいえず、しかも自転車利用者の実態ですら明らかでないというのが現状である。

3. 田原市レンタサイクルの社会実験概要

現在、田原市では環境と共生する豊かで持続可能な地域を目指し「たはらエコ・ガーデンシティ推進計画」を策定しており、その主要施策のひとつとして「コンパクトシティ プロジェクト」を推進し、

市街化区域内の自転車や徒歩によるスロームーブなまちづくりを実現するための一つの手法として、レンタサイクルの社会実験が行われた。その概要を簡単に表-1 に、レンタサイクルステーションの分布状況を図-2 に示す。

表-1 田原市レンタサイクルの概要

実施期間	平成19年8月1日(水曜) ～10月31日(水曜)
利用料金	無料
利用できる方	高校生以上の方
利用時間	午前9時～午後5時
ステーション	4か所 (田原市役所、セントファーレ、田原文化会館、田原福祉センター)
利用方法	・1回目の利用のときに「登録証」を作る (身分証明書が必要) ・2回目以降の貸し出しは、「登録証」を提示するだけで利用できる



図-1 レンタサイクルステーション分布状況

4. 本研究の分析方法

本研究の分析に使用したデータは、H19年7月29日に田原市で行われたレンタサイクルイベントの際に実施されたアンケート(サンプル数42)、H19年8月1日～10月31日に田原市で行われたレンタサイクルの社会実験の際に実施されたアンケート(サ

ンプル数 149)、自転車利用意識と交通実態について 2007 年 11 月に田原市内 15 歳以上を対象に実施された市民アンケート(世帯票、個人票)を用いる。イベントの際に実施されたアンケートにおいては、個人属性等の他に自転車利用環境について尋ねている。レンタサイクル社会実験の際に実施されたアンケートにおいては、主にレンタサイクルに関する設問で構成されており、田原市民を対象に行ったアンケートにおいては、移動時間・移動距離などのパス(利用経路)全体に関する設問が多く、また満足度に関しても、総合満足度の他に 6 種類の項目別満足度を聞いている。また自転車利用以外に自動車や公共交通等の他の交通手段の実態や意識についても調査している。

5. 分析結果

社会実験アンケート調査の結果、レンタサイクルがなかった場合の他手段を尋ねたものでは(図-2)、自動車と答えた人が 16%であり、レンタサイクルは自動車利用量の削減に一定の効果があるといえる。貸出方法(図-3)やステーションの利用状況(図-4)については概ね高い評価が得られ、総合評価(図-5)においても今後の継続を望んでいる意見が多いことがわかった。レンタサイクルの利用料金は 100 円未満を望む意見が多く(図-6)、今後の事業継続を考えると 1 日 100 円くらいが妥当な値段であると考えられる。

市民アンケートの結果では、レンタサイクルを知っていたと答えた回答(図-7)は 43%だった。そして、社会実験アンケートでレンタサイクルが利用しやすくなる方法を聞いた項目(図-8)では、案内看板を増やすという回答が一番多く、67%であった。このことから、よりレンタサイクルについて広報活動を実施することが重要になると考えられる。

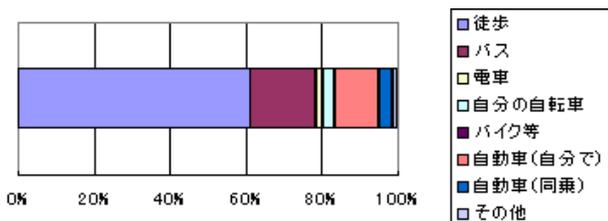


図-2 レンタサイクルがなかった場合の他手段

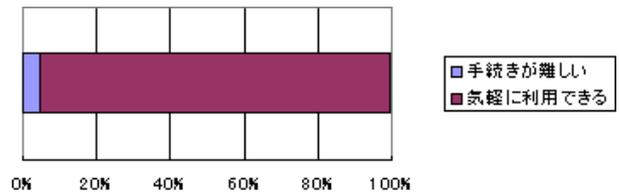


図-3 レンタサイクルの貸出方法

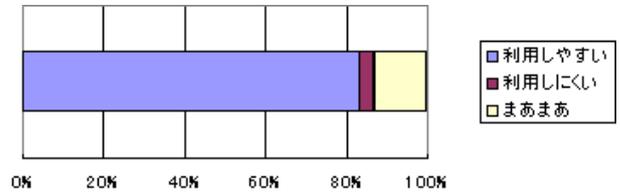


図-4 ステーションの利用状況

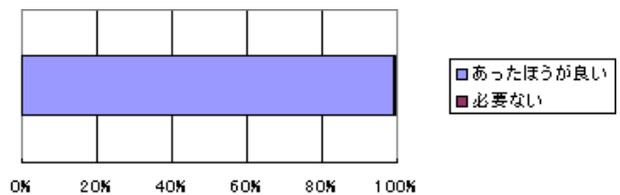


図-5 総合評価

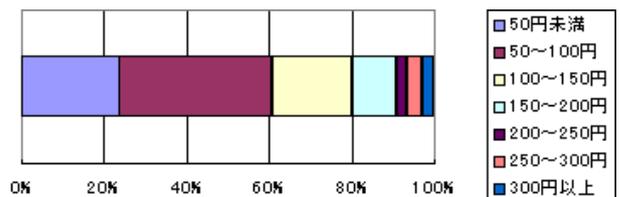


図-6 レンタサイクルの利用料金

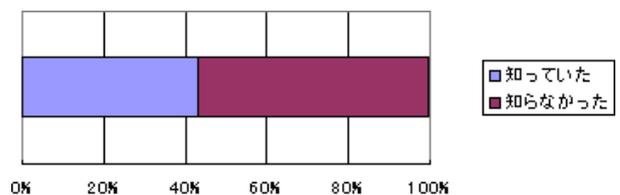


図-7 レンタサイクル社会実験の周知状況

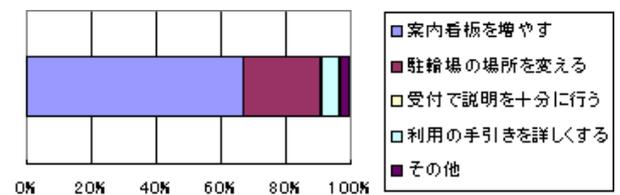


図-8 レンタサイクルが利用しやすくなる方法

6. 今後の課題

本研究では、田原市が行ったレンタサイクルの社会実験を通して、自転車利用者の実態やレンタサイクルシステムについて、大まかな集計、分析にとどまっているが、詳細に把握、分析し今後の研究につなげていきたい。